



## 「伝統」とは 伝承と変革である

柳田理事長には、前回の、「シリーズ聞く」で、アルシエのこれまでの10年を振り返っていただきました。今回は、10周年記念事業を経た現在の理事長の想いをお聞きしました。

— 昨年末に開催されたアルシエ10周年記念交流会は大盛況でした。

アルシエ10周年事業実行委員会のみなさんに全部お任せでした。私は最初から関与しないというところで、人選も役職もすべて実行委員会に託しました。

「過去の振り返りはするよ。でも将来の展望は喋らないよ」ともお伝えしていました。

この実行委員会には、10周年記念事業をするという目的があり、それに向かっての企画・立案から実行に至るまでの全てを担っていただきました。

これまでいろいろな実行委員会形式の事業がありました。市民活動として企画・立案から「責任」まで果たすことで「やりがい」を感じてもらえるものと、チケットの売り上げが絡んでくるようなものとは分けて考えないといけないな、というところで、この10年間に

### プロフィール

柳田 吉亮 (やなぎた よしひろ)

1954年小野市に生まれ。小野高校を経て、大阪経済大学経営学部を卒業。1994年社団法人小野加東青年会議所の理事長、2000～06年小野まつり実行委員会会長。現在、オーゾヤ商事代表取締役、NPO法人北播磨市民活動支援センター理事長、小野商工会議所会頭を務める。

実行委員会形式で行う事業の形も変わってきたように感じます。そういう意味において、今回の10周年記念事業は、実行委員長を中心にサポーターチームであるアナウンサーチームが司会進行、チーム裏方が舞台設営・音響照明、フロントチームが案内と、すごく胸が張れるものでした。市民が支えているという位置づけがしっかり表れていた事業でしたし、高い評価もいただきました。

シリーズ  
listen to...

# 聞く

Vol.21

NPO法人 北播磨市民活動支援センター

理事長 **柳田 吉亮** さん

— 市民活動の力がこの10年で育ってきたことの証明だったのですね。

私は今年還暦なんです。これまでの10年は、私が突っ走って皆さんに理解を求めながらやってきた時代だったと思います。でもこれからの10年は、世代交代の10年だと思っんです。

いつまでも自分がリーダーのままだと新しい情報に疎くなってしまうたり「昔はこうだったから」それが正しいという思い込みに陥ってしまったりするんじゃないかと。それに気づけば修正するつもりではありますが、気づかないうちに走っている危険性があるんじゃないかと。私の存在が大きければ大きいほど、若い人たちは言いにくい。その若い人たちが、どういふふうに向ってくれるようになるのか、これからの大きな課題だと思っています。

きれいな言い方ですが、「今の完璧な100点より、未来のための80点」そんな感覚です。

— 次の10年のためには20点をどう使うのでしょうか？

継続するためには、変革が必要だと思えます。

継続というのは、実は変革の積み重ねであり、それを「伝統」にしていかなければならない。

「伝統」というのは「伝承」とは違います。同じことを繰り返して伝えていくだけではなく、8割9割の「伝承」の上に1割2割の「変革」があり、それをルーチン化して完成し「伝統」になる。

全部がいつへんに「口」と変わるとなると、それはしんどいけれど、少しずつの変革を恐れずに実行していくチャレンジ精神をもつことで、1～2年では気づかないけれど10年20年で見ると変わっている。「伝統」として成り立っている。そういう組織は強いと思います。

芯になる部分は変える必要はないけれど、市民活動としていつまでもこれだというものはない。人も変わってきますし・・・。

— 今の時点での変革にはどういったものがあるのでしょうか？

この2年ほどの間ですごく成長したのは、アルシエの各部門のマネージャーです。

組織人としてのマネジメント能力が高まってきていると感じます。このあたりのことは、外部からはなかなか見えないところでもあり

ですが、10周年記念事業で、各マネージャーが将来の展望について語ったことは、絶大な評価をいただきました。

アルシエという組織をマネジメントする人たちがどう育っているのか、というのは、私がこの10年でどう組織に関わってきたのか、ということの表れです。10年先もこれまでも同じことの繰り返しではないとすれば、それは、私のマネジメントが悪かったということです。これは大きな課題でしたが、この2年間で手ごたえを感じられるようになりました。

また、昨年からは始まった隣接するホテルの建設や、市民交流ホールの増築も変革のひとつです。

市民活動を活性化させるというミッションとは少し離れた部分と思われるかもしれませんが、しかし、市民活動をベースとしたコミュニティビジネスとの協働を図り、ここエクラ周辺が小野市の賑わいづくりの拠点としてその役割を果たすことができれば、結果としてアルシエの存在価値が上がり、事業費も増え、市民活動活性化につながります。

このノウハウを確立することが

できれば、我々の指定管理者という立場がより一層揺るぎないものになる。これは大きなチャンスだと思っっています。

— これからの10年、理事長はどういう形でアルシエに関わってくださるのでしょうか？

用があった時に呼んでもらうたら「はあーい」ってシルバーマークの車に乗ってやってきて、「昔これどんなんやっただんですか？」って訊かれたら「おお、昔はあ、こないしてやってたんやけんぞなあ」言っつね。

「とこやしらんのお爺さんのとこ行って話してきてもらえませんか？」って言われたら「よっしゃわかったー行ってくるわー」いってね(笑)

将棋に例えるなら玉将・金・銀・飛車・角があって、歩がある。全ての駒が同じ方向に向かって勝負するように、アルシエの理念をみんなが共有し、変革というチャレンジを忘れずに、同じ目標に向かって進んでいく。

それを少しはなれたところからのんびり見たいですね。それが理想ですね。